

地域と歩む 新寮完成



山岡副町長(右)から記念品を受け取る新入寮生(名札を画像加工しています)

内子高小田分校 新入生12人入寮式



新たに完成した「第5小田寮」の前で記念撮影に臨む新入寮生や関係者

内子高校小田分校(内子町寺村)の生徒が暮らす寮が新しく完成し、7日に入寮式があった。新入生17人のうち12人が地

域の支えを受けながら寮生活を送る。

小田分校は全国から生徒を募集。本年度の生徒は71人で、半分以上の39人が寮に入る。内子町によると、これまで四つの寮があったが、県内外からの入学生が増え満室となっていた。町は3億1944万円をかけ新たに「第5小田寮」を整備し、3月に完成した。

新たな寮は女子向け。2階建てで個室が41部屋あり、集会室や洗濯室などを備える。集会室では他の寮に入居する男子も一緒に食事する。式には入学式を終えたばかりの新入寮

生や保護者、地域住民らが集った。山岡

敦副町長が「小田は夏祭りや山の神火祭りなど伝統行事が多く、住民と関わりながら体験してほしい。人間力を培い、多様な学びにつなげて」と小野植正久町長の歓迎メッセージを読み、入寮生に記念品を手渡した。

「すい〜きれいな寮でうれしい」と喜ぶのは千葉県出身の戸笹麻耶さん(15)。「少人数の学校を探していたので、楽しく通えそう。自然豊かな小田で地域の人たちと仲良くなり、行事に出るのが待ち遠しい」と声を弾ませた。

(山下直人)